

インプラントによる乳房再建後の整容性に対する影響因子の解析

① 対象

2013年7月以降当院にてインプラントを用いた乳房再建を受けられた方

② 研究機関名

大阪大学医学部附属病院 形成外科（責任者：富田興一）

③ 目的と意義

乳房インプラントによる乳房再建が2013年から保険適応となり、乳房再建の症例数は急増しています。しかしながら、被膜拘縮をはじめとする人工物特有の合併症のため、インプラントによる再建乳房の術後整容性は自家組織による再建乳房のそれに比べて不安定となることが多いのが現状です。本研究ではインプラントによる乳房再建後の整容性を検討し、それらに影響する因子の抽出を目的としています。

④ 方法

インプラントを用いて乳房再建を行った患者さんの診療録から必要な情報を収集し解析を行います。新たに追加で検査を行うことはありません。診療録は全て個人が特定できないように匿名化して使用します。自分の診療録を研究に使わないでほしいという希望がありましたら担当医までご相談ください。ご不明な点がありましたら、いつでもご相談ください。

⑤ プライバシー

本研究では、名前や住所などの個人情報を使用しません。

⑥ 問い合わせ先

研究責任者：形成外科 助教 富田興一

連絡先：大阪大学医学部附属病院

06-6879-5530